

視察報告

一心会 島津幸男

2019.8.3

I. シティ・プロモーションの取り組み ~ 札幌市役所

1. 施策の展開 (別紙 1)

2. 課題と所感

(1) “笑顔になれる町” という普遍的で、誰もが受け入れられる標語をシティ・プロモーションのキャッチフレーズとして掲げる。緩やかな横のつながりを重視した展開が効を奏し、591団体を核に市民の参加が相次いでいる。

(2) 人口 195万人の全国 5位の

札幌市に拘らず、シティプロモーションの市の担当は一人で、予算規模も1,000万円とささやかである。

札幌市議会事務局

政策調査課 政策調査係

前川 昌彦

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
TEL 011-211-3164
FAX 011-218-5143



“周ニヤン市” キャンペーンに千万単位の予算を注
いだ周南市との違いを分析する。

ア. 下からの意見を重視する。担当には、意欲旺盛で、
対外的に発信力のある “笑顔いっぱい” の適任者 を
配置している。

イ. 庁内外の各担当とのコミュニケーションも、会議は
ほとんどせず、スピード感をもってなされている。

ウ. 冬季オリンピックの経験からか、イベントへの全
て的な取り組みが自主的に行われている。

エ. 夏のビール祭、冬の雪祭り、札幌よさこい祭等、
目白押しの大型イベントが町に活気を与えていた。

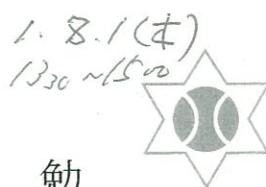
II. クルーズ事業の展開 ~ 小樽市産業港湾部港湾室

2

小樽市産業港湾部
港湾室 港湾振興課

課長 八木 勉

〒047-0007 小樽市港町4番2号
TEL 0134-23-1107 FAX 0134-23-1109
E-mail : [REDACTED]



小樽運河

小樽市議会事務局
調査係

書記 河崎仁美

〒047-8660 小樽市花園2丁目12番1号
☎(0134)32-4111(代表)内線504
☎(0134)22-2847(直通)
FAX(0134)22-2315

1. 寄港実績 (別紙 2)

2. 将来構想 (別紙 3)

3. 課題と所感

(1) 港の施設が大型クルーズの寄港には十分ではない。

(2) 観光客の嗜好は基本的には船旅をエンジョイすることであり、町全体の活性化への効果が、いまひとつ見られない。

(3) 建て替え時期が到来し、大型ホテル（ヒルトン）、集客施設（裕次郎記念館）等の閉鎖や移転が続く。

人口10万強の地方の小都市の限界と息切れを感じる。

(4) 平日にも拘らず海外からの観光客が多い。今後は飛騨高山に見られるような文化・歴史を堪能するといつ

た良質な客層の招致が求められる。

III. 道の駅“サーモンパーク”の運営～千歳市

1. 資料 (別紙 4)

2. 課題と所感

(1) 設計から建設・運営まで道の駅“ソレーネ”とは

○ 大きく異なり、民間活力の活用で成功する。指定管理料は0円、収益の1/2を市へ納付。昨年度は130万円。

(2) 外部のシダックスと提携し、そのネットワークと先進的なノウハウで、全国の道の駅の中でもトップクラスの経営力と評判を保つ。外部からの評価を積極的に取り入れる姿勢がみられる。

北海道の空の玄関口
～ちとせ～



1/8/2
北海道の空の玄関口
～ちとせ～



千歳市観光スポーツ部
観光企画課企画振興係

◎ 係長 吉見 章太郎

〒066-8686 北海道千歳市東雲町2丁目34番地
Tel 0123-24-0377(直通) FAX 0123-22-8854
e-mail: [REDACTED]



千歳市観光スポーツ部
観光企画課企画振興係

主 事 木村 拓資

〒066-8686 北海道千歳市東雲町2丁目34番地
Tel 0123-24-0377(直通) FAX 0123-22-8854
e-mail: [REDACTED]



千歳市議会事務局
総務課調査係
係長 寺嶋 慶之

〒066-8686 千歳市東雲町2丁目34番地
TEL:0123-24-0791
FAX:0123-24-3322
e-mail: [REDACTED]

(3) 街道筋から離れているが、駐車場はいつも満杯。その一方、イベント広場が広大。屋内のレストランも全国クラスの評判の店が5店舗。地元物産の安価で良質な品揃えがなされる。メロンやとうもろこし、土産物の全国発送も可。

(4) 子供向けの施設も充実、多くの親子連れて賑う。

(例) 子供用トイレ、壁に映像マッピング、遊具等

(5) 運営は民間に任す一方で、バックアップの市職員の熱意が節々に感じ取れる。

(6) 隣接の“サーモンパーク”や千歳川がテーマパークの様相を示し、道の駅との一体感を醸し出す。

(7) 屋内レストラン、遊戯施設に多くの地元市民の姿が見られ、道の駅“ソレーネ”にとっても、経営面で大いに参考になる。

また、市の職員を中心に貪欲なまでに常に新規の取り組みに向う姿勢が評価できる。

視察報告 札幌市 令和元年7月31日 尾崎隆則

札幌市シティプロモート戦略事業について

1、 目的と役割

他都市と比較を超えて「札幌の魅力」をアピールしよう

*創造性や多様性で都市の魅力を作り出す

*札幌らしいライフスタイルの中から生まれる魅力を発信

*市民が誇りを持って内外にアピールできるようにする

*世界の都市と多様な関係をつくりだす

2、 シティプロモート戦略の位置付け

ひとつひとつの活動が「札幌らしいライフスタイル」に

札幌市のシティプロモート戦略は、都市の目指す姿に向って
個別の事業を推し進めるためのエンジン。

個別の事業が札幌の魅力として一貫した都市イメージを結
ぶように、統一的で効果的な都市メッセージを世界と札幌市民
に向けて発信する仕組み

3、 戦略の展開

結果を出しながら柔軟に対応する

* ゴールを示し、ゴールに向う取り組みの成果を出し続ける

* 常に見直し、走りながら考える柔軟で継続的な体制づくり

* 産・学・民との連携体制づくり

* 一体的・横断的・戦略的な展開

札幌の姿

世界の中の札幌 雪降る大都会

日本の中の札幌 最北の拠点都市

北海道の中の札幌 人＆モノのハブ＆ゲート

都市としての成り立ち....若い実験都市

所感

北の大地札幌は、観光資源に恵まれ、国内はもとより外国人が多く来訪し、官・民が一体となっておもてなしに力を入れている。

周南市にも観光地としての名称はあるが、規模が小さく県外・外国からの来訪は到底望めない。私の夢であるが、大津島に橋を架け陸路とすれば、リゾートホテルや海水浴客・釣り・回天記念館などに多くの観光客が到来すると思う。周南市では唯一の観光資源地だと思う。

視察報告 小樽市 令和元年8月1日

小樽港クルーズ推進事業について

尾崎隆則

「小樽」と言う地名はアイヌ語で「オタ・オル・ナイ」（砂浜の中の川の意味）と呼ばれたことに由来するもの。

1、 概要

設立目的 = 「小樽港へのクルーズ客船の誘致を通して、後志地域や道央圏との連携を図りながら観光産業をはじめとする地域経済の活性化を推進することにより、これら地域の振興に寄与すること。

事業費 = (平成31年) 小樽市負担金 260万円

2、 主な事業

(客船誘致促進事業)

*国内外の船社等訪問や視察対応

*東京でのクルーズセミナー

*海外船社幹部招請時の小樽港や周辺観光地の

P R 活動

*マイアミで開催される世界最大規模のクルーズ

見本市等への参加

(広報宣伝事業)

*海外見本市で配布のパンフレットへの広告

掲載やノベルティグッズの配布

*ホームページでの情報発信

(受入態勢整備事業)

*出迎え・見送りの実施（小樽クルーズ客船

歓迎クラブ 会員約630人）

*寄港時の対応（通訳・観光案内・物産販売

外貨両替・アトラクションなど）

*安全で快適な埠頭環境づくり（ハイヤー協

会等との連携・安全対策など）

*小樽港は北・西・南の三方が山に囲まれている天然の良好である。

*中心市街地に大変近く、小樽運河やガラス工房など道内有数の

観光エリアも徒歩圏内にある。

*国道や高速道路、JRの駅からも近く、新千歳空港からJRで

1時間程度と北海道内の観光エリアのアクセス、発着港としての

利用にも大変便利な立地である。

*観光客は年間約800万人。

所感

小樽港のクルーズ推進事業がこれほど大掛かりなものだとはまったく想像していなかった。国内からは日本丸、飛鳥Ⅱ・外国からはダイヤモンド・プリンスなどの大型クルーズ船が3隻～10隻も寄港している。歴史が古く、岸壁の建物はかなり腐食しているが、改修が予定されている。

本市では到底このような事業は展開できないが、せめて松山行きのフェリー誘致などは検討してみると必要があると感じた。

視察報告 令和元年8月2日（金）北海道千歳市

道の駅 {サーモンパーク千歳} について 尾崎隆則

概要

敷地面積=約3万m²

延床面積=約1,870m²

平成6年、「道の駅」への登録のため、「千歳サケのふるさと館」として、事業費約400万円で供用開始した。

平成16年8月 道の駅 {サーモンパーク} として、道内85番目の登録をした。

平成27年、利用者から飲食・物販が点在し、店舗の営業時間が統一されておらず、利用しづらいとの声から、「立寄型」ではなくインディアン水車や水族館などを生かした「目的型」に変更して、総事業費約12億8千万円でリニューアルした。

所感

J Aやコンビニとのタイアップは、周南市と同様であるが、施設内の広さや、フードコート・レストランなど、市民や観光客の集える場は本市と比べ物にならない盛況な施設であった。

7月31日 札幌市

視察項目 「笑顔」をキーワードとしたシティプロモートについて

札幌市は大正11年8月1日市施行、面積1, 121. 17 km²、人口1, 965, 161人

山口県の総人口より50万人も多い北海道の道庁がある北海道の中心都市だけでなく国内5番目の人団規模を有する大都市でもある。シティプロモート事業についてはH24年に立ち上げ、札幌の魅力を伝えるためにコンセプトに、まず札幌の特徴を知る、つまり自分自身をわかっていないと対応できないからスタートしている。

東京、横浜、大阪、名古屋、に続いて5番目の都市だが、現在6番目の福岡を追い越せを目標に取り組んでいたが、今も福岡を意識している。福岡は九州の中心都市で、九州全域と北海道とを比較した時後輩人口を考えると九州の方がはるかにポテンシャルがたかく、遠く北と南に離れた福岡を意識した戦略には驚くと同時に、リスクもした。産業では第3次産業(88.5%)に特化している。また札幌の一人勝ちになってもよくならないと分析、理解していく、全道に効果がないとダメだと市の広報誌で全道の広報をしている。つまり北海道の発展なくして札幌の発展はない、目前のことより大きく、広く先を見越した取り組みをしている素晴らしい戦略だと思う。ただ道内において他都市の追随を許さない圧倒的なポテンシャルをもっているからできることだとも思う。具体的に興味を持った手法の中に、イベントは地元の企画会社に委託していることだ、地元のことを一番知っている地元企業、そして公務員が企画するのではなく、餅は餅屋というプロに委託することがいいということをよく理解していると思った。さらに来るべき人口減少対策にも積極的に取り組んでいて、行き当たりばったりであった周南市と大きく違う札幌市の取り組みを手本に我が市も邁進していくかなくてはとおもった。

・

会派行政視察

R1年8月1日

一心会

友田秀明

視察先

小樽市

視察項目 小樽港クルーズ推進事業

小樽市は面積 243.83 km²、人口 115,621 人、大正 11 年 8 月 1 日市制施行で第三次産業の街で、行政で気になるのが市立病院の職員が 527 人もいて、職員総数が 1,723 人在職していることである。本題に戻り古くはニシンで栄え、道内への物流拠点港となり道内の石炭の積出港としても栄え、天然の良港である小樽港は外国貿易港に指定され明治期には大いに発展した街であった。さらに南樺太が日本領土になってからは樺太航路の開設、欧米航路開設と続き大変な賑わいで、都市銀行や商社が軒を競い「北のウォール街」とよばれていた。二次大戦後一気に衰退し「斜陽都市」と言われた長い停滞の後、高速道、関西との大型フェリーの就航、港湾施設整備、駅前再開発、国道拡張等を進め小樽運河埋め立て問題を一部埋め立ての折衷案で決着後、観光客が訪れるようになり年間観光入込客数が H30 年度は 781 万 4,200 人に上っている。

さて小樽港クルーズ推進事業であるが、天然の良港、港が中心市街地に大変近く小樽運河やガラス工房など徒歩圏内にある、国道や高速道路、JR の駅も近い、新千歳空港から JR で 1 時間程度と北海道内の観光エリアへのアクセス、発着港として便利な立地等条件がそろっていることから推進してきた。H23 年 11 月に日本海拠点港に小樽、富山、舞鶴の 3 港が選定され、外国船社に対するクルーズ誘致の大きな誘引力となるとともに、緯度の違いを活かして「四季の姿」の移り変わりを 1 つのクルーズで提供できるという特色が売りにできることから、3 港連携で誘致活動を行い、寄港促進を進めていくための「環日本海クルーズ推進協議会」を立ち上げとりくんできた。その後秋田、境港の 2 港の管理者が加わり日本海側の 5 港が一体となって夜のうちに次の寄港地に移動して効率的に観光できることでより売り込みやすくなつたとともに多くの観光客が増えている。

令和元年8月2日

会派行政視察

一心会

友田秀明

視察地 千歳市 視察項目 「道の駅サーモンパーク」リニューアル事業

千歳市観光スポーツ部観光企画課所管。 旧道の駅「サーモンパーク」はH16年に登録したが、財政健全化中だったためトイレや看板等最小限の整備としたため（事業費約4百万円）当時の年間利用者は60万人という状況であったが、利用者からの意見や、隣接する「千歳サケのふるさと館」の入場者減、民間シンクタンクから独立採算は困難との指摘、市内の商業消費額の減少等から、しせつの老朽化や観光ニーズの多様化により機能充実や魅力的な施設づくりが必要と判断しリニューアルすることにした。コンセプトとして、大きくは交通量の多くない国道に面しているので、立寄り方ではなく、インディアン水車や水族館などえお生かした「目的型の駅」を目指し、細かくは道の駅を新千歳空港や支笏湖、農村地区との連携した市内回遊の拠点。市民や観光客のニーズに対応した飲食・物販に加え、四季折々のイベントを開催できる施設整備。千歳水族館やインディアン水車、周辺商業施設と連携した賑わいを創出。集客力のある商業施設（有名店）との連携等の具体的目標をもって推し進めていた。また整備方針には利便性の強化としてトイレ機能の充実、コンビニ、観光情報の提供、点在している施設の集約、市民への配慮（駐輪場等）。アメニティの強化として景観や心地よく休憩できる休憩施設、千歳の特産品や土産品などの提供、四季折々のイベントの開催などである。そして民間活力の導入として、運営には商業的ノウハウが必要、建築物は効果的・効率的な運営のため民間活力導入した結果、設計・建設・維持管理の財政負担が縮減または平準化、建設と運営のリスクが明確なため事業者の参入意欲が高まる、発注手続きの軽減で期間短縮。指定管理者のノウハウ活用でサービスの向上等の効果が上がった。指定管理料を0円、収益の50%を市に納付という周南市とは全く違ううらやましくなる契約を結んでいる。をしに